

SusHi Tech Tokyo 2025 に参加して

一般財団法人ベンチャーエンタープライズセンター
理事長 市川隆治

2025 年 5 月 8 日～10 日に東京ビッグサイトで開催された東京都主催のスタートアップイベント、SusHi Tech Tokyo 2025 に参加した。今年は東京ビッグサイトの東 4～東 6 を使い、フランスを始め多くの外国ブース、日本の大企業ブースやスタートアップブースを配置し、講演ステージも 10 か所を数える等、その規模は昨年メイン会場、日本科学未来館に比較して相当大規模となった。元々参考としていたパリで毎年開催される欧州最大規模の VIVA TECH の雰囲気似通ってきたとの印象を受けた。

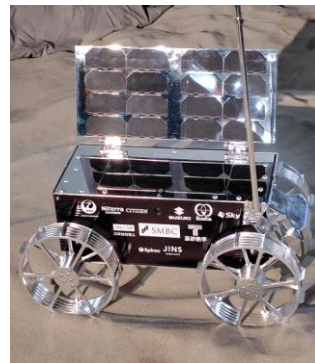
欧米のスタートアップイベントは民間企業が主催することがほとんどであるが、こちらは東京都主催というところが一味違っている。リトアニアの首都ビリニュスのイベントはビリニュス市が主催していたので、地方公共団体の主催が全くないわけでもない。

また、ステージでの講演では主として英語が使われた。パネリストに外国人が含まれる場合は当然としても、パネリスト及びファシリテーター全員が日本人の場合も英語で通していたのには進化を感じた。学界では Born Global が叫ばれて久しいところであるが、正にそれを実践する場面を目撃した。それだけ英語で通用する人材も豊富になってきたということでもあろう。聴衆に外国人の姿がちらほら見られたことも一因かも知れない。

広い会場をすべて見て回るのは不可能で、目についたところ、関心のあるところについてコメントしていきたい。全体として、急激にとは言えないまでも、徐々にスタートアップの生息環境が改善されつつあることが実感された。

1. 月面探査車

会場の真ん中を歩いていて一番目を引いたのは大きな砂場の上に乗せられた ispace 社の月面探査車であった。

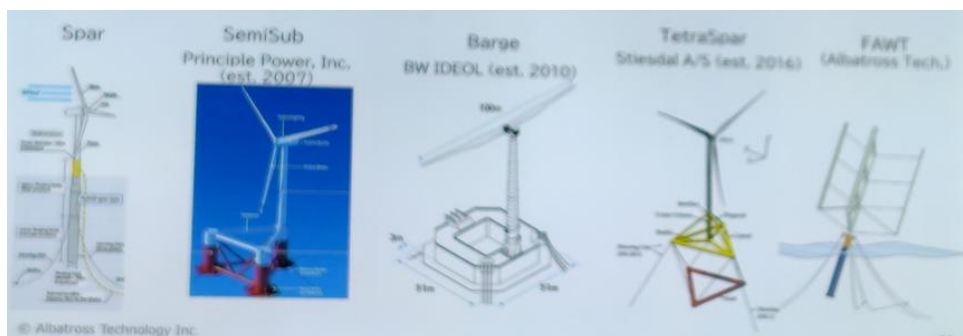


見えにくいですが、右側に格納されているスコップを広げて月の砂、レゴリスを採取し、NASA に売却するとのこと。月面での初の売買契約実施となるようだ。今年1月に地球から飛び立ち、5月7日に月周回軌道に到達しており、およそ1か月後の6月6日日本時間午前4時24分に月面への着陸を予定しているとのこと。月着陸実証機のSLIM の場合のように逆さまに着陸し、月面探査車を放出することができなくなるようなことは考えられないかとの質問に対しては、ispace 社がランダー（月着陸船）も一緒に開発したので、無事着陸できると自信を覗かせていた。



果たしてこの未来図にあるような月面基地が本当に実現するのであろうか？そのためには月に存在すると言われている水資源の活用が不可欠となろうが、思いもよらなかった不純物が発見されたらどうするのかと聞いてみたところ、一旦熱して蒸発させ、冷えた水蒸気を回収すれば不純物は除去されるとの回答であった。

2. 洋上風力発電



Typical Floater for WTG 20 MW

Floater
100 x 90 m

Camp Nou,
Barcelona, Spain

Football Pitch
105 x 68 m

Flowindus

360°

Source: Flowindus

[illegible]

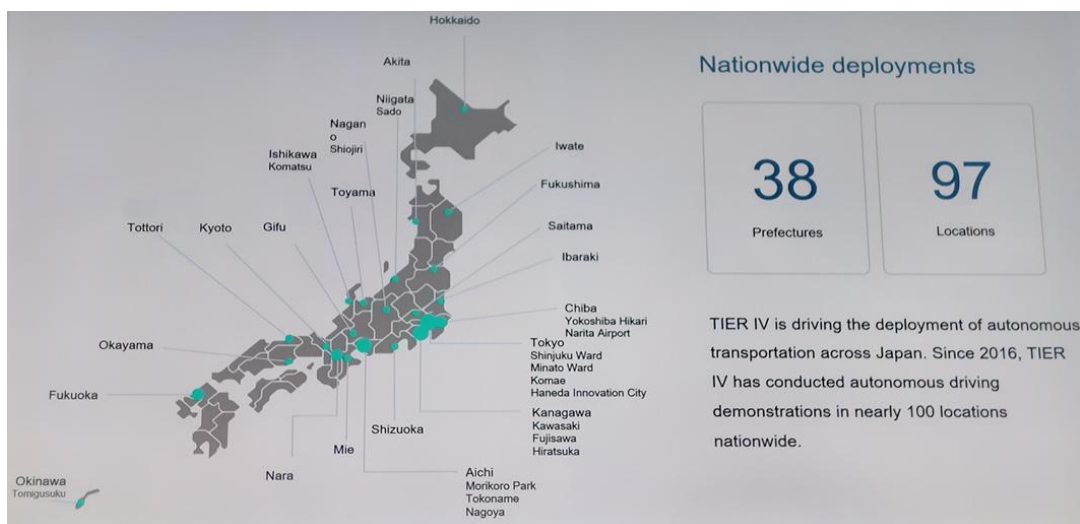
それは、沖ノ鳥島や南鳥島といった島嶼部を含めると、東京都に属する排他的経済水域は広大だからであるとのことだ。

3. ロボット

人型ロボットの進化は目を見張るものがあり、中国ではロボットによるマラソン大会も開催されたとの報道もあった。いずれは下図のように人間と混じって人型ロボットが同僚のように働いている光景が見られることになるのかも知れない。



4. 自動運転バス



TIER IV 社によれば日本の38都道府県で97か所の自動運転車の実証実験が実施されているとのことだった。この中で特に石川県の小松駅から小松空港までは昨年3月から自動運転バス（運転手が同乗したレベル2）の通年運行が実施されている。そこでバスの時刻表を見てみた。

小松空港連絡バス

2025年5月1日～2025年5月31日

★小松駅→小松空港

空港までの運賃

小松駅 (4番のりば)	西町	浜田町	板木町	城海町	浮輪	浮輪西	小松空港	接 続 便			接続時間
280円			230円		160円		空港までの運賃				
6:55	6:56	6:57	6:58	6:59	7:01	7:02	7:07	7:35 ANA752 東京	0:28		
								7:40 JAL182 東京	0:33		
8:05	8:06	8:07	8:08	8:09	8:11	8:12	8:17	8:50 JAL184 東京	0:33		
自動 8:20	-	-	-	-	-	-	8:35	9:15 ANA4647 福岡	0:58		
9:10	9:11	9:12	9:13	9:14	9:16	9:17	9:22	10:40 ANA754 東京	1:18		
自動 9:30	-	-	-	-	-	-	9:45				
10:20	10:21	10:22	10:23	10:24	10:26	10:27	10:32	11:05 JAL186 東京	0:33		
								11:45 BR157 台北			
								11:45 ANA1173 札幌	1:13		
自動 10:55	-	-	-	-	-	-	11:10	12:00 KE776 ソウル			
11:20	11:21	11:22	11:23	11:24	11:26	11:27	11:32	12:55 ANA1233 福岡	1:23		
12:20	12:21	12:22	12:23	12:24	12:26	12:27	12:32	13:30 MU568 口上海			
自動 13:30	-	-	-	-	-	-	13:45	① 14:10 JTA037 沖縄	1:38		
14:10	14:11	14:12	14:13	14:14	14:16	14:17	14:22	② 14:55 JAL188 東京	0:33		
自動 14:45	-	-	-	-	-	-	15:00				
15:20	15:21	15:22	15:23	15:24	15:26	15:27	15:32	16:05 ANA4649 福岡	0:33		
自動 15:40	-	-	-	-	-	-	15:55	16:55 I T253 台北	1:23		
16:05	16:06	16:07	16:08	16:09	16:11	16:12	16:17	17:00 ANA756 東京	0:43		
17:05	17:06	17:07	17:08	17:09	17:11	17:12	17:17	18:35 ANA758 東京	1:18		
17:45	17:46	17:47	17:48	17:49	17:51	17:52	17:57	③ 18:35 JAL190 東京	0:38		
18:30	18:31	18:32	18:33	18:34	18:36	18:37	18:42	19:35 ANA1237 福岡	0:53		
19:15	19:16	19:17	19:18	19:19	19:21	19:22	19:27	19:45 UC803 香港			
								④ 20:15 JAL192 東京	0:48		

※自動印

自動運転バス運行

緑斜字表記は今日時刻が変更になった箇所になります。

自動運転バスは、最大定員15名です。 安全のため、当道の間、立席乗車はできません。

① 沖縄行き (JTA037便) は5/1～5/6の間5分早発 (14:05発)。

② 東京行き (JAL188便) は5/1～5/6の間5分早発 (14:50発)。

③ 東京行き (JAL190便) は5/1～5/6の間5分遅発 (18:40発)。

④ 東京行き (JAL192便) は5/1～5/6の間15分遅発 (20:30発)。

ソウル: 水・金・日運航、口上海: 月・木・金・日運航、台北: 木・日運航★便番: 月・木・土(4/24～)

注1 航空機の運航状況は各航空会社にてご確認ください。

※運航開始日は行き先ごとに異なりますので、各航空会社のホームページなどでご確認ください。

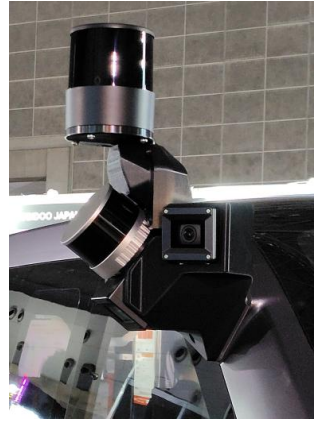
※運航開始の状況は予告なく変更される場合がございます。あらかじめご了承ください。

このように水色のところが自動運転バスとなっており、片道4.4キロを15分で走行している。よく見てみると、自動運転バスだけは途中のバス停をスルーして15分かかっているが、普通のバスは6か所の途中バス停に立ち寄りながら12分で走行している。それだけ自動運転バスはゆっくり安全運転をしているということになる。

さらに、今年3月28日にはレベル4の自動運転車としての車両認可を北陸信越運輸局から取得したとのことで、今後今年度以降レベル4での運行を開始するとのことである。レベル4とは、限定された領域での決められた条件下で、すべての運転操作を自動化。ドライバーの介在は必要なく、システムによる自律的な自動運転が可能とい

うレベル。つまり、運転手は乗車しないということになる。

今や規制緩和よりもコストをいかに下げるかが大きな課題となっているとの社長の説明であった。



同社の自動運転車の展示もあったので質問してみた。大型のバンで計算装置はどのくらいの大きさでどこにあるのかと聞くと、後方の荷物台を占拠しており、その分荷物は置けない状態とのこと。将来的にはこの装置の小型化が期待されるとのこと。また、左右両側についているライダーと呼ばれるセンサーが出っ張っているのが気になると言ったところ、内蔵させるとライダーの視界が360度取れなくなるので現状ではやむを得ないとのことだった。高さ制限が屋根ギリギリの場合はこのセンサーがひっかかってしまう可能性無きにしも非ずである。